



第35回しれとこ産業まつり

第35回「しれとこ産業まつり」(主催＝しれとこ産業まつり実行委員会)が9月28日(日)、みどり工房しゃり特設広場で「大地と海の恵みに感謝」をテーマに開催された。当日は低気圧の影響でとても風が

女性部(中)直径1メートルのどら焼き(下)

強く肌寒い天気ではあったが町内・外から沢山の方々が訪れた。午前9時半から斜里中学校吹奏楽部のオーブニング演奏でスタート。午前9時45分からの特産品販売開始から強風にも拘わらず多くの人々が各ブースに並び賑わいを見せ、秋の味覚を楽しんだ。

商工会からは今年も青年部・女性部が参加。青年部は焼肉コーナーを担当、たこ焼き、フライドポテト、焼き鳥、ビール、トロピカルジュース、かき氷などを販売。女性部は好み焼き、お弁当や部員達のお店の自慢の品を持ち寄り販売した。

今年は、農商工連携協定締結2周年記念ということで、JA斜里町青年部と当会共催で「直径1メートルのどら焼き造りに挑戦」した。本番前に2回の試作を行い、試行錯誤を重ね、出来上がったどら焼きは、縦横5センチ×10センチに切り分けられ約130個用意された。制作中には顔を出して心配そうに眺めている来場者たちだったが、どら焼きが焼き上がると拍手が巻き起こり、販売

商工会だより

発行所 斜里町商工会
〒099-4113 斜里町本町29番地8
電話 0152-23-2185
FAX 0152-23-0501
e-mail: shashoko@rose.ocn.ne.jp
発行日 平成26年11月5日
編集 広報委員会
責任者 神田裕治
印刷 (有)斜里印刷

開始から10分で完売となった。ステージイベントでは、キャラクターショーとして「列車戦隊トッキュージャー」が午前・午後の2回行われ、ちびっ子たちが大きな歓声を上げて喜んでた。11時半からは演歌歌手「城之内早苗さん」によるコンサートがあり、多くの方たちがその歌声に魅了された。

ステージの横ではお楽しみ抽選会が行われたり、「海と大地で遊ぶ」コーナーではほっき釣り、タコやサケのつかみ取りなどで親子連れが楽しんでいた。また、「知床盆栽展」も開かれた。

(渡辺)

平成26年1月から、記帳・帳簿等の保存制度の対象者が拡大されました

個人の白色申告者のうち前々年分あるいは前年分の事業所得、不動産所得又は山林所得の金額の合計額が300万円を超える方に必要とされていた記帳と帳簿書類の保存が、平成26年1月からは、これらの所得を生ずべき業務を行う全ての方(所得税の申告の必要がない方を含みません。)について必要となります。

記帳・帳簿等の保存制度や記帳の内容の詳細は、国税庁ホームページ(<http://www.nta.go.jp>)に掲載されていますので、ご覧ください。

詳しくは、最寄りの税務署にお問い合わせください。

企業を訪ねて

(168) 株 ゆう悠 (グループホームともに)

父親が経営するスーパーで働いていた遠藤篤さん(42)は、父がスーパーを閉店する時、子供の頃から小さくても良いからトップ(社長)になれと聴かされて育ってきたそう。

知り合いから介護施設についての相談があった時に異業種ではあるが今までの経験と知識が生かされるのではないかとという想いから株式会社ゆう悠を設立、入居者1ユニット9



名の「グループホーム(ともに)」を平成25年4月に開設した。

高齢化社会と介護施設が増えてきているが…との問いに、「高齢化社会を迎え斜里町に於いても介護を必要とする方は益々増えていくと思います。入居者の少ない小さなグループホームは、老健、特養といった入居者の多い施設と比べ、スピード感を持って対応することが出来ます。入居者さんにとって施設の選択肢が増えて良いのではないかと考えています。小さな施設が生き残るには、

入居者・家族・職員がトライアングルのような関係で、独自のサービスを高い選ばれる施設にならなければならぬと思っています。」とのこと。

最後に遠藤社長の夢を聞かせて下さい。との問いに、「車椅子に乗ってテレビ観戦をしている老人(96)を指し、あの方は寝たきりでしたがこの施設に入り自分の身の周りのことが色々出来るようになりまして。」と嬉しそうに話し始める。「入居者さんの平均年齢は86歳、車椅子生活の人が多いのですが主婦をしていた方などはまだまだ包丁とかを持つと上手なのです。私は将来、入居者さんに簡単な仕事を短時間で良いから働いてもらい、その労働の対価に少しのお金で良いから頂き、働くこと、人の役に立っているということが生きがいに繋がるのではないかなと思っています。とても難しいことだとは思っていますが社会に役立つ喜びを感じまた地域との繋がりがもできます。夢の様な実現には難題が山積していますが協力してくれる企業さんがいれば『グループホーム』なら必ずできると思っています。」と熱く語る。

訪問を終え、遠藤社長さんの「自分が健康」な内は、真剣に考えない問題ですから!!との言葉がグサリと胸に突き刺さっている。他人事ではないので恥ずかしい…。(竹田)

● 年末資金の準備はお早めに! ●

● 日本政策金融公庫

日本政策金融公庫では、年末資金及び国の教育ローンの貸し出しを次の要領で行っている。

■ 年末資金

▽融資額 普通貸付4800万円以内

▽利率 年1・30%、2・80%※

(10月10日現在)

▽使途 商品仕入れや、買掛金、手形決済、賞与などの諸経費支払い、車両、機械購入

や店舗事務所の改装など
▽返済期間 運転資金5年以内(うち元金据置1年以内)
・設備資金10年以内(うち据置2年以内)

※お使いみち、ご返済期間または担保・保証人の有無によって異なる利率が適用される。

■ 国の教育ローン

▽対象者 高校・大学・専門学校などに入学・在学される方の保護者等

▽使途 入学時・在学時にかかる費用

▽融資額 学生・生徒一人につき350万円以内

▽利率 年2・35%(10月10日現在)

▽返済期間 15年以内(在学期間内で元金を据置ができる)

日本政策金融公庫北見支店

(国民生活事業)

0157・24・4115

80157・24・4115

80157・24・4115

80157・24・4115

80157・24・4115

● 商工貯蓄共済融資

平成26年度下期(10月～3月)の適用融資利率は、次のとおりです。

■ 一般融資利率

積立範囲内 0・40%

3年以内 0・70%

(+0・8%損害補填基金)

3年超5年以内 0・75%

(+0・8%損害補填基金)

5年超10年以内 0・80%

(+0・8%損害補填基金)

中小企業大学旭川校
研修のご案内

テーマ 業務改革推進実践講座
期間 前半 1月19日(月)～21日(水)
後半 3月11日(水)～13日(金)

対象者 経営者・経営幹部

テーマ 運送業のための経営力を高めるロジスティックス戦略

期間 1月27日(火)～28日(水)

対象者 経営者・経営幹部・その他の候補者等

問い合わせ先

中小企業大学旭川校

〒078-1855 旭川市緑が丘

東3条2丁目2番1号

TEL 0166-6511200

FAX 0166-6512190

工業部会視察研修

工業部会
(山本勝部
会長)では、

9月17日、
18日の日程
で、職場の
安全管理・
労務改善等
に関する事
項や企業の
先進技術・
生産ライン
等について

の研修を、旭川市・津別町・下川町
において実施した。

1日目は、丸玉産業(株)を視察。津別工場では、原木100%道産材であるカラマツ・トドマツ原料の合板を製造している。原木から合板が出来るまでの過程で、原料の40%がゴミとなるが、このゴミの有効利用・再資源化の目的のために、平成19年にバイオマスエネルギーセンターが操業開始した。このバイオセンターでは、木くずのゴミを燃焼させ、熱(蒸気)と電気に変換して工場内で使用するエネルギーになっており、工場で使用される電気量は3千8百kw、センターから生まれる電気量が4千4百kw、余剰分約66百kwは北電に売電している。

2日目の午前中、(株)エフ・イーを



下川町ふるさと開発振興公社

視察。以前は、合板のホットプレス機械の会社であったが、現在は、野菜の洗浄・選別・梱包機械の分野に転換した。同社が一躍知られるようになったきっかけが、葉付き大根の洗浄機。大根の洗浄は難しく、酸化しやすい。大根の葉は栄養価が高いため、葉の付いた状態で流通が求められ、葉付での大根の洗浄は更に難しくなる。機械類の製造は、装置・システムを含め、ほとんどが自社製であり、選別機の最新型は、直径9cm長さ30cmまでのものであれば、何でも選別できる。

午後からは、下川町ふるさと開発振興公社を視察。下川町は循環型森林経営Ⅱ植林↓育成↓伐採のサイクルで植林50ha×60年Ⅱ3千haを目指し、昭和28年から実施し、1サイクルの60年が経過した。このサイクルから出る木材のゴミを利用し、従来の重油ボイラを木質ボイラへ転換することで、熱供給の約60%が木質によるものとなる見込みである。下川町一の橋地区では、超高齢化対応社会モデル事業が行われており、超高齢化問題と低炭素化を同時に解決するため、エネルギー自給の向上、環境配慮建築の導入、地域資源の活用による新産業創造、集住化による自律型コミュニティモデルの創造の4つの事業が行われていた。この事業は高齢化社会での町の持続化に関して、極めて重要な観点で行政が将来を見据えていると感じた。

企業への訪問は、大企業においても小企業においても、雇用確保の問題やものづくり・環境への配慮等において参考となるものが多かった。また、近隣の企業・工場が独自の技術・商品を持ち、全国でも数少ない分野で活躍する状況や、環境・エネルギーの分野での取り組みや将来を考えた取り組みについても、とても参考になった。

プレミアム商品券

11月26日(水)年末消費需要期を迎へ道の駅しやり、道の駅うところ・シリエトクにおいて、今年度2回目となる町内消費拡大事業が行われる予定である。

この事業は斜里町が町商工会と斜里ポテト協同組合の共催で行われるもので今年度で6年目をむかえる。斜里町内での買い物を促進していただき合わせて消費拡大と生活応援を目的とするもので、斜里町民に恒例の事業となりつつある。

斜里町でこの事業が始まった頃には管内のあちらこちらの町村で同じようなプレミアム事業が展開されていたが、変わらずに継続しているのは斜里町だけである。商工会では来年度以降もこの事業が続けられるように強く要望していくという。

他方、行列の一番乗り争いもだんだんエスカレートしている。今回は

何時から並び始める人がいるのだろうか。

尚、斜里ポテト協同組合ではプレミアム商品券での販売をより一層促進するため又、加盟店の販売促進のため今回も抽選で総計220本が当たる企画を用意している。

女性部活動報告

10月12日、西興部村(人口1155人)において、当会女性部(片山真弓部長)はオホーツクブロック商工会女性部員研修会に出席した。管内11町村の女性部員約100名が研修・交流を目的として一同に集まった。(斜里からは5名出席)。

開会の挨拶後、意見交換会において、管内の情報交流が行われ、その後のテーマ講演では管内初の女性ハーター伊吾田氏による「西興部におけるエゾシカとの関わり方」を興味深く聞くこととなった。交流会では斜里町商工会女性部は参加者全員がステージに並び、「マジックショー」を行い、会場から大きな拍手をいただくことになった(：快感)。

研修会前日は、町民収穫感謝祭に参加予定だったがあいにくの天候により中止となっていた。今後の予定として、11月19日(水)にクリスマスリース作成、12月には知つとこ特産品フェアに参加予定である。(神田)

「必ずチェック 最低賃金！使用者も労働者も」

北海道最低賃金**時間額 748円**

平成26年10月8日 発効

北海道内で事業を営む使用者及びその事業場で働くすべての労働者（臨時、パートタイマー、アルバイト等を含む）に適用される北海道（地域別）最低賃金が上のとおり改正されました。

○最低賃金には、精皆勤手当、通勤手当、家族手当、臨時に支払われる賃金、及び時間外等割増賃金は算入されません。

○最低賃金額以上の賃金を支払わない場合は、最低賃金法違反として処罰されることがあります。

11月は労働保険適用促進月間です！

事業主の皆さん。労働保険の加入はお済みですか。

労働保険に加入して、従業員の方々が安心して働ける職場にしましょう。

労働保険とは、労災保険と雇用保険の総称で、労働者の生活の安定、福祉の増進等を図ることを目的に、国が直接管理運営している保険です。農林水産業の一部を除き、労働者を一人でも雇用する事業については、法人・個人を問わず加入が義務づけられています。

厚生労働省では、「未手続事業の一掃」を年間を通じた主要課題と位置付けたうえで、11月を「労働保険適用促進強化期間」とし、集中的に広報活動を展開し、労働保険制度のより一層の理解、周知を図ることとしております。

問い合わせ先

最寄りの労働基準監督署・公共職業安定所

お知らせ**○年末調整説明会**

- とき 11月18日(火) 午後2時～
- ところ ゆめホール知床

○決算・消費税説明会

- とき 12月4日(木) 午前10時～
- ところ 産業会館大ホール

○ふらつとナイト

- とき 11月14日(金) 午後7時～
- ところ 実施商店街

コーナー

はまなす

*日本では69年ぶりにデング熱が見つかり騒動となったがその致死率は1%。致死率50%のエボラ出血熱が世界に少しづつ拡散しつつある。

*一方で騒ぎすぎとの声がある。インフルエンザウイルスを代表とする？多くのウイルスは、咳やくしゃみなどで空気感染するがエボラウイルスは感染者やその体液（鼻汁、血液、汚物等）に直接触れない限り感染しない。感染しても症状が出ない人は、感染力がなく症状が現れてから感染力を発揮するそうで、隔離すれば大流行は防ぐことができる。つ

会員の状況**加入者**

・MANAMAHALO マナマハロ 木幡香穂里

脱退者

・山本旅館 荒木 光子

・(株)ナカムラ 中村 拓幸

・牛山工業(株) 牛山 一幸

・(株)ノルドスターン 牛山 一宏

平成26年11月1日現在会員数 364名

まり、インフルエンザのように知らないうちに多くの人に忍び寄って感染を大流行させる能力はまだないとのこと。エボラ出血熱より心配しななくてはいけない伝染病はまだほかにもありマラリアでは年に70万人程度が命を落としているとのこと。

*製薬会社がエボラ出血熱の治療薬の開発に本腰を入れないのは他の感染病の患者に比べぐくわずかなこと、あまり裕福でない地域での感染であるため採算が合わないという理由もあるらしい。

*エボラ出血熱の影響によりチョコレートの高騰や品薄が予測されている。世界有数のカカオ豆の産地ガーナやコートジボワールに拡大すれば収穫作業にあたる労働者が減るからだそうだ。

*これを早く食い止めるにはチョコレート好きの野口英世先生みたいな人が現れないとだめなのかな？ (棚山)